

落花生の殻使った紙開発

SDGs（持続可能な開発目標）の達成が求められる中、千葉市美浜区の印刷会社「みつわ」が、廃棄される落花生の殻を使った紙を開発した。ほんのりクリーム色で、落花生の殻の繊維が残る独特



「環境や地産地消に思いを」

1957年創業の同社。チラシやパンフレットの印刷などを行っている。紙製造に取り組み始めたのは2022年。大和久社長が取引先の落花生加工業者と雑談をしていた中で、処理に時間や手間がかかることを知

ったのがきっかけだった。落花生の殻は県内だけでなく、でも年間約1800トが廃棄されているとされ、その処分費用は約4900万円に上るといふ。大和久社長は「落花生は千葉が誇る産業。廃棄にか

の風合いが特徴。名刺用などを中心に販売を開始しており、同社の大和久裕太社長（40）は「紙を手にとってもらい、地産地消や環境問題に思いを寄せてほしい」と期待している。

殻のパウダーが約15%含まれており、ところどころに残る繊維が特徴。印刷機も対応していて、流通している紙と遜色ない使用感だ。

かる手間を減らすことで、地域の産業を持続的なものにしていける。その貢献ができるかと考えた。70年近い同社の歴史の中で初めて紙の製造に着手した。

加工業者から譲り受けた落花生の殻は、同社内で手作業でふるいにかけて枝や虫を除去した上で細かく粉碎。その後、福井県の製紙会社に委託し、パウダー状にした落花生の殻を古紙パルプなどと一緒に和紙作りの製法で紙にした。落花生の収穫時期によって紙の質感にも差が出るという。大和久社長は「かなり試行錯誤した」と振り返る。

落花生の殻を使った紙は1箱100枚で2300円（税別）から。詳細や問い合わせは同社043(243)1511。

千葉市美浜区の印刷会社



落花生の殻を活用し紙を開発したみつわの大和久社長。紙製のクリアファイル（左）や賞状などラインアップもさまざま＝千葉市美浜区のみつわ



落花生の殻を使った名刺。繊維が交じり、独特な風合いが特徴だ